

1. 学歴

- 2002年 3月 慶應義塾大学経済学部卒業
2002年 4月 東京大学大学院経済学研究科経済史専攻修士課程入学
2004年 3月 東京大学大学院経済学研究科経済史専攻修士課程課程修了
2004年 4月 東京大学大学院経済学研究科経済史専攻博士課程入学
2009年 3月 東京大学大学院経済学研究科経済史専攻博士課程修了
2009年 3月 東京大学博士(経済学)号取得

2. 職歴・研究歴

- 2009年 4月 慶應義塾大学経商連携グローバル COE 研究員(PD)
2010年 4月 一橋大学大学院経済学研究科講師

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

経済史 C

(b) 大学院

ワークショップ, リサーチワークショップ

B. ゼミナール

学部前期, 学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部授業(「経済史 C」)では近世・近代(17~20世紀)における日本経済の変容過程について、産業・流通・貿易構造といったマクロ的視点だけでなく、身近なテーマや人々の営み(労働や生活の変化、私が研究対象としている温泉地や観光地における温泉観光業の動向、当時の人々の余暇の過ごし方など)に関するミクロ的な視点にも焦点をあてながら授業を行っています。

学生には、複雑化する現代社会の諸問題を解決するためにも、歴史研究を通して、日本や世界の現状を相対化する眼を養ってもらいたいと考えています。そのためにも、現状の日本経済や経済史について幅広い関心を持ってもらう一方、大量にあふれる情報や知識に流されない力(能力)を大学時代に身につけて卒業してほしいと思います。「経済史」という学問は、歴史的に物事を把握することで現在を相対化する視点を養うことができる学問です。学部ゼミでは、周りの情報に流されない洞察力を身につけてもらうために、日本経済史の知識や情報を伝えるだけでなく、自分の生活や住む地域との関わりを考えながら、地域経済のあり方や歴史に関心を持てるように、資料収集やフィールド調査の方法など自分で資料収集ができる力を養います。そして、自分が関心を持ったテーマについての実証論文(卒業論文)の執筆がゼミ活動の中心になります。

4. 主な研究テーマ

(1) 近現代日本の資源管理(温泉資源を中心に)

近代以降の温泉地における源泉利用のあり方を分析することで、近代日本の「近代的土地所有権」制度下における資源利用の特質を解明するが目的です。地域社会で秩序づけられていた資源利用のあり方が、近代以降の「近代的土地所有権」の確立の中で、どのように国家の公共的な機能に組み込まれ、他方、地域の公共関係の生成とどのような関わりを持ったのかが私の問題関心になります。

(2) 食品産業史

生活に身近な産業である食品産業の歴史的展開について、主に、第一次大戦期から現代までの缶詰産業を対象に研究を行っています。不安定な原材料供給と多様化する消費動向との間で企業間での競争や企業経営がどのように行われているのか、原材料 - 生産 - 流通 - 消費の連関に着目し分析しています。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

「近代日本における資源管理—温泉資源を事例に—」(博士論文), 東京大学, 2009年。

(b) 論文(査読つき論文には*)

* 「温泉地における源泉利用—戦前期熱海温泉を事例に—」『歴史と経済』191号, 2006年4月, 41-58頁。

* 「地域社会における資源管理—戦間期の熱海温泉を事例に—」『社会経済史学』73巻1号, 2007年, 3-25頁。

「温泉観光地の形成と発展—戦間期の静岡県を事例に—」『東西交流の地域史—列島の境目・静岡』, 2007年, 185-202頁。

* 「株式会社による源泉管理—長岡鉱泉株式会社を事例に—」『経営史学』43巻3号, 2008年, 3-27頁。

「缶詰産業の企業化と生産地域の展開—静岡県を事例に—」加瀬和俊編『戦前日本の食品産業—1920年～30年代を中心に—』(東京大学社会科学研究所研究シリーズ ISS Research Series No.32), 2009年, 103-128頁。

「温泉権取引の展開—戦前期熱海温泉を事例に—」慶應義塾大学経商連携グローバルCOE「市場の高質化と市場インフラの総合的設計」, DP2009-30, ディスカッションペーパー, 2010年3月, 1-30頁。

(d) その他

書評 岡田知弘編著『京都経済の探究—変わる生活と産業—』『歴史と経済』200号, 政治経済学・経済史学会, 2008年, 69-70頁。

「伊豆の温泉と学童疎開—熱海温泉竜宮閣—」静岡県戦争遺跡研究会『静岡県の戦争遺跡を歩く』, 2009年, 149-152頁。

本棚「金澤史男著『自治と分権の歴史的文脈』」『月刊東京』東京自治問題研究所, 319号, 2010年, 37-42頁。

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

「地域社会における資源管理—戦間期の熱海温泉を事例に—」社会経済史学会, 第75回全国大会自由論題,

関西大学, 2006年9月。

「戦間期日本の缶詰産業—生産消費の関係—」日仏シンポジウム, 日仏会館, 2006年10月。

「温泉観光地の形成と発展—戦間期の静岡県を事例に—」地方史研究協議会, 第57回(静岡)大会共通論
題, 常葉学園大学, 2006年10月。

「温泉地におけるまちづくりの歴史の変遷—熱海温泉を事例に—」経営史学会, 第43回全国大会パネル報告,
愛媛大学, 2007年10月。

* 「源泉利用の歴史的展開—熱海温泉を事例に—」日本温泉地域学会, 熱海起雲閣, 2010年6月。

「産業化による資源利用の相克—常磐湯本温泉を事例に—」社会経済史学会, 第79回全国大会自由論題,
関西学院大学, 2010年6月。

(b) 国内研究プロジェクト

「近現代日本における資源管理—温泉資源の利用秩序を事例に—」科学研究費補助金(研究活動スタート支
援), 研究代表者, 2010 - 2011年度。

「『日韓相互認識』研究の深化のために」科学研究費補助金(基盤研究 A), 研究分担者(研究代表者: 吉田
裕), 2010 - 2014年度。

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

埼玉大学経済学部非常勤講師(2008 - 2009年度)

獨協大学経済学部非常勤講師(2010年度 -)

(b) 所属学会および学術活動

政治経済学・経済史学会

社会経済史学会

経営史学会

歴史学研究会(編集委員 2010年度 -)

日本温泉地域学会

(c) 公開講座・開放講座

「温泉資源の開発と保全の歴史 - 大湯間欠泉の利用を中心に -」熱海市立図書館主催, 図書館講座『熱海
の歴史をひもとく』, 2009年8月。

「高度成長期の熱海温泉 - 温泉観光業と働く女性達」熱海市立図書館主催, 図書館講座『熱海の歴史をひも
とく』, 2010年8月。

(d) その他

「高度経済成長期の日本 - 温泉地の形成と発展 -」慶應義塾大学経済学部・ポーfum大学交流事業『高度
経済成長期の日本経済について』, 2009年9月。

「『近代日本地方財政史研究』をめぐって」金澤史男著作シンポジウム『歴史がつむいだ学問と実践』, 2010年
12月。